

20世紀の始まり（1901～1915）、その6

《東京市電と京王新宿駅の誕生秘話》

1903年（明治36）から1904年（明治37）にかけ、当時の東京馬車鉄道（注1）を電化した東京電車鉄道と、新規開業の東京市街鉄道、東京電気鉄道の3社が相次いで路面電車を開業します。（注2）

しかし日露戦争の戦費調達のため、臨時増税として運賃に通行税が課せられ、経営が圧迫されたことから、1906年（明治39）3社は、合併を前提に運賃を値上げする申請（各社利用毎に運賃3銭から、均一運賃4銭へ）を行ないます。

値上げに怒った市民たちは、同年3月11日、電車に投石や放火などを行い、54車両が破壊されてしまいました。（電車焼き討ち事件）結局、3社は、合併して「東京鉄道」となって運賃値上げに成功しますが、市有化の声が高まり、1911年（明治44）に東京市が同社を買収して「東京市電」となりました。（注3）

一方、1910年（明治43）、京王電気軌道株式会社が設立され、1913年（大正2）に、笹塚駅－調布駅間の12.2kmの電車営業を開始しました。笹塚より新宿に到るルートは、市街化され用地買収が困難だったことから、玉川上水や甲州街道の敷地を利用し、2年後に新宿追分（新宿3丁目）まで開通させました。（注4）

なお、京王線の新宿駅が、小田急新宿駅の西隣に変わるのは、1945年（昭和20）のことです。大空襲で変電所が被害を受けて低電圧で運行せざるを得ず、このため現新宿南口前の陸橋の坂を越えることができなくなって、急遽、陸軍工兵隊が、現在の位置に駅を新設したのです。

現在、京王新線ができ、地下鉄都営新宿線と相互運行していますが、新宿三丁目までのルートは、実は、昔の京王線のルートの地下となります。

注1：「東京馬車鉄道」は、道路にレールを敷き、車を馬が曳くもので、1882年（明治15）、新橋－日本橋間を開業。順次、路線を拡大していきましたが、電車の時代となり、「東京電気鉄道」と改称し、路面電車に切り替えました。

注2：「東京電車鉄道」は、1903年（明治36）8月22日に、品川－新橋間を開業。

「東京市街鉄道」は、同年9月15日に、数寄屋橋－神田橋間を開業。「東京電気鉄道」は、1904年（明治37）12月8日に、土橋－御茶ノ水橋間を開業。

注3：「東京市電」は、1943年（昭和18）、東京都制施行によって都電となります。都電は、地下鉄ができて廃線されていき、現存するのは荒川線のみとなりました。

注4：京王線が、新宿から八王子まで繋がるのは、1926年（大正15）府中－八王子間を敷設していた玉南電気鉄道株式会社を吸収合併して以降です。

写真は、①東京市電（新宿歴史博物館にある昭和初期の「東京市電」原形模型、細見撮影）、②新宿周辺の今昔マップ（細見加筆）

①



②

